

11.九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (九州)		観光名所（従業員）	来客数の動き	・10連休という超大型連休により、相当数の客が来場している。日中町内では、ほとんどの場所で渋滞し、駐車場も早い時間で満車状態になり、臨時駐車場への誘導対応に追われている。
		一般小売店〔青果〕（店長）	販売量の動き	・ここ2～3か月の気候の安定もあり、地元や県外からの野菜相場や入荷が安定している。これにより客の購買意欲も安定している。
		一般小売店〔精肉〕（店員）	単価の動き	・高単価な商品がよく売れている。
		一般小売店〔生花〕（経営者）	単価の動き	・母の日が終わってから売上が落ちるのではないかと心配していたが、開店祝いや誕生日プレゼントに単価が高い注文が多く、売上が落ちていない。
		コンビニ（エリア担当・店長）	競争相手の様子	・近隣のコンビニエンスストアが7月まで改装に入り、その客が当店に流れている。1日のピーク時の客が若干増加している。
		家電量販店（店長）	単価の動き	・ゴールデンウィークによる影響はなく、来客数が減少傾向であるにもかかわらず、1品単価が上昇したことにより、前年を超える売上となっている。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・4月に販売開始した新型車の売行きが好調である。来店客数が増え既存車種の販売も伸びている。当分の間、新車販売は堅調に推移する。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（企画担当）	販売量の動き	・季節商材の動きが良くなっている。
		その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	販売量の動き	・ゴールデンウィーク10連休という大きなプラス与件があり、ショッピングセンターでは、売上が好調に推移している。九州エリアは雨天になり、10連休だけで前年比112%超である。懸念していた連休後のマイナス反動もなく、今月は、全体を通して良い結果である。
		高級レストラン（支配人）	単価の動き	・注文の際、通常よりワンランク上のコース料理の注文が多い。ワインも高額の商品数が増えている。
		都市型ホテル（販売担当）	単価の動き	・訪日外国人による宿泊がまだ多く、景気は伸びている。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・光回線の提供エリアの拡大により販売量が増加している。
		通信会社（業務担当）	販売量の動き	・前年までは、売上の大半が紹介によるものであったが、今年に入ってから少しずつ紹介以外の問合せが増えており、売上がつながっている。
		その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	競争相手の様子	・2018年度決算は、4月の介護報酬プラス改定を背景に、おおむね好決算となっており、上期は福祉用具等の販売事業において、消費税引上げ前の駆け込み需要も期待できる。
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・ゴールデンウィークが明けて、売行きが悪かったマンションの値引きを始めたところ、若干売行きが上向いている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・来客数、販売額共に変わらず、足踏み状態である。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・商店街全体として低迷が続いており、景気回復が見当たらないまま営業を続けている。
		商店街（代表者）	販売量の動き	・気温が一気に上昇したことで、冬物や春物の衣料品残量が増えたことで動きが悪くなっている。この暑さに対処できず、外出する人が減り商品の動きがない。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・10連休では、周辺の観光施設や飲食店は景気が良かった。一方、商店街は来街者が少なく売上が上らず、物販は非常に厳しい状況である。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・春物商材の販売量が振るわなかったが、初夏の訪れが例年より早く、夏物商材の販売量が伸びている。しかし、単価が低く月間の販売量や売上は、共に横ばいである。	
	商店街（代表者）	単価の動き	・景気は変わらず低迷しており、客単価が低下している。	

百貨店（総務担当）	販売量の動き	・当社が管理している商業施設は、核テナントになっていた百貨店が撤退し、再構築中に伴い各階とも工事中であるが、既存営業テナントでは、一部業種を除き、来店客数、購入単価共に前年に及ばず厳しい状況が続いている。
百貨店（企画担当）	販売量の動き	・改元によるイベント等を積極的に実施していなかったこともあるが、ゴールデンウィークの出足や売上は例年と大きく変わらない。売上や来客数をみても、景気が上向くような兆候はない。
百貨店（営業担当）	来客数の動き	・ゴールデンウィーク後半に、遠出を避けた三世代家族での来店が増加している。子供催事や物産催事への地元及び帰省客の来店が増加し、各会場への入場制限や待ち時間等の発生、店内の喫茶や大食堂への波及効果もあり、昼食時間帯の混雑が発生している。また、クルーズ船での観光客来店増加により、平日及び土日祝日の入店が増加しており、購入単価や売上伸長率も上向いている。
百貨店（プロモーション担当）	販売量の動き	・ゴールデンウィークの10連休を受けて、客数の増加に伴い消費は上向いた。一方、ここ数か月好調の訪日外国人は、航空券の高騰等から客数が減り、売上減少になっている。
百貨店（業務担当）	お客様の様子	・衣替えも含めて夏商材に動きがみられる時期であるが、大型連休での出費の影響で、商品の購入を抑えようとする客が多い。
スーパー（店長）	単価の動き	・来店客数はほぼ横ばいだが、1品単価の下落で客単価が落ち、売上としては厳しい状況である。
スーパー（店長）	販売量の動き	・客単価は辛うじて上昇傾向にあるが、来客数減少により、売上も減少し厳しい状況である。特に生鮮製品の苦戦が続いている。
スーパー（店長）	お客様の様子	・客単価等に大きな変化はない。
スーパー（総務担当）	来客数の動き	・土日の来客数は、前年比マイナスの状態である。客単価や買上点数は前年比を超えているが、来客数の減少分までは補っていない。当店営業エリア内に競合店が新規出店したことで、価格競争も厳しさを増し、来客数に影響を及ぼしていることが原因である。
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・特に10連休は、食品小売店にとって致命的で、社会全体の景気はともかく連休中の売上は大きく減少している。
スーパー（統括者）	お客様の様子	・客は、チラシ商品以外の買物に慎重となっており、購入単価が下がる傾向にある。安い商品の買い回りがかなり頻繁にみられ、一部メーカー商品の値上げを価格に反映しにくい状況である。
コンビニ（経営者）	販売量の動き	・一般的に気温の変動が大きく、体感温度が低くなることもあり、おでんや中華まんの販売期間を長くした結果、売上に繋がっている。ゴールデンウィークは異例の長さであったが、通常の休日の売上ほどではないが、休日に弱い店舗は、落ち込みが少ない状況である。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・相変わらず来街者は少なく、来客もほとんどない。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・10連休の影響により、今月前半の推移は悪い状況であるが、後半には持ち直し、通常の売上になると予想している。改元による影響はない。
衣料品専門店（総務担当）	来客数の動き	・当商店街及び当店は、来街数、来店客数が下げ止まりの状態である。
家電量販店（広報・IR担当）	販売量の動き	・主要商材の売上が前年を超えて推移しており、なかでも白物商材のエアコンディショナーや冷蔵庫、洗濯機の平均単価も上がっている。
住関連専門店（経営者）	販売量の動き	・都市部での売出しの不振分を店舗販売やネット販売で補った結果、順調に伸びており、全体としては前年並みである。
その他専門店 【コーヒー豆】 （経営者）	お客様の様子	・前年との比較では、新規の客が増加しており、転出による減少分を補う傾向になっている。客の購入割合は前年と変わらない状況である。

その他専門店 [ガソリンスタンド] (統括)	販売量の動き	・燃料油の小売価格は、高止まりからやや値下げの傾向である。観光客に期待していたが、例年のゴールデンウィークと変わらず、全体的な販売数は、前年並みの予想である。
その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] (統括者)	来客数の動き	・売れ筋は変わっているが、来店客数の増減に大きな変動はない。
タクシー運転手	来客数の動き	・月の前半は、大型連休により観光客数が例年以上に増加し、タクシー利用も増えている。中旬以降は、節約志向が強くなり、夜の繁華街の人出もやや減少気味だったものの、全体の売上では前年を若干上回っている。
タクシー運転手	お客様の様子	・今月は、自家用車やレンタカーが多く、タクシー利用が少ない。
通信会社 (営業担当)	販売量の動き	・業種的に例年この時期は販売が落ち込み始め、秋口までそのペースが続く。
ゴルフ場 (従業員)	販売量の動き	・比較的良好な天候が続き、入場者、売上共に若干前年を上回っているが、景気に変化はない。
美容室 (経営者)	販売量の動き	・2～3か月前は寒い時期であるが、暖かくなると美容業界は上り調子になり、長い連休もあることで、景気は良くなると予想していたが、今月は横ばいで推移している。
美容室 (店長)	来客数の動き	・連休後の来客数は、今年も例年同様に減少している。
商店街 (代表者)	来客数の動き	・年度初めと改元関係の仕事が落ち着き、来客数が減少している。
一般小売店 [鮮魚] (店員)	お客様の様子	・卸先である魚屋や料理屋は、売行きが悪い状態にある。
一般小売店 [茶] (販売・事務)	来客数の動き	・大型連休中の客足は伸びず、売上は大幅に減少し、連休明けの売上は少額が続いている。新茶時期と長期休暇が重なった影響により、小売店はかなり厳しい状況である。
百貨店 (売場担当)	競争相手の様子	・全店舗合計の売上は、3か月前より2%ダウンしているが、前年の8月以降、4月を除き100%を超えている状況を継続している。一部の店舗では、入店客数と売上がかなり上がっていたが、今月は若干落ちてきている。
百貨店 (売場担当)	販売量の動き	・10連休前半は、改元もあり売上が好調であったが、後半は逆に前年を下回った。10連休全体では前年並みであったが、その後は入店客数、売上共に前年比を下回ることが多い。
スーパー (店長)	来客数の動き	・客数は前年並みであるが、1品単価が2円ほど安くなり、点数も下がり売上が減少している。ここ2か月で競合店が2店舗増えることで、景気が厳しくなることが懸念される。
コンビニ (経営者)	来客数の動き	・立地的にロードサイド型であるため、大型連休により事業所等の休みの影響をもろに受けたことで、来客数、売上が大幅に減少し厳しい状況が続いている。
衣料品専門店 (店員)	お客様の様子	・急に暑くなり、生地が厚い春物は見向きもされず、売上が若干落ちている。
家電量販店 (総務担当)	お客様の様子	・夏商戦前の端境期である。除湿器やエアコンディショナーの早期販売等、対策を立てているが反応が鈍い。
高級レストラン (経営者)	来客数の動き	・気候が暑くなり客の出足が悪く、来店客数が減少している。また、注文の品数や単価が下がっている。
一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・前年と比較すると、集客数が2%ほど減っている。メニューを見直し、辛うじて売上は維持しているが、これからの予約は、厳しい状況が予想される。
都市型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・競合施設の増加により、販売数は想定内ではあるが減少している。単価は維持できていることから、景気自体は悪くない。
都市型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・相変わらず訪日外国人は好調だが、高額メニューの売上が減っており、消費意欲が下がっている。
旅行代理店 (従業員)	販売量の動き	・ゴールデンウィーク10連休後の予約が伸び悩み、追い討ちを掛けるように6月から燃油が値上がりし、夏の需要に影響が出ることが予想される。

	旅行代理店（企画）	販売量の動き	・先行き数値が、おおむね前年割れの状況である。	
	美容室（経営者）	単価の動き	・単価を安くしているが、客はより安い単価を望んでいる。	
	音楽教室（管理担当）	来客数の動き	・生徒募集をしているが、余り反応がない。	
	設計事務所（所長）	単価の動き	・材料単価や人件費は上がっているが、報酬は上がらないのが現状である。	
	設計事務所（代表）	来客数の動き	・消費税引上げ前の影響で節約志向になり、景気は若干悪くなっている。	
	住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・展示場及びイベント共に来場数の減少が見受けられる。	
	×	商店街（代表者）	・当商店街は観光コースに入っているため、来店客数は増加しているが、全く売上に繋がっていない。商店街としての一般客の売上はない状態である。	
	×	百貨店（営業担当）	・大型10連休は、令和の始まりもあり、今月前半祝賀ムードで盛り上がりを見せ、福袋の仕掛け等をしたことで、売行きは好調である。一方、10連休明けのマーケットは、米中貿易摩擦に伴う株価の大幅下落で、消費マインドがかなり冷え込んでいる状況である。	
	×	高級レストラン（経営者）	・10連休が終わると来客が増加すると期待していたが、売上が伸びなかった。その後、徐々に増えてはいるが、例年5月ほど戻らず、厳しい状況である。	
	×	スナック（経営者）	・街の飲食同業者は、10連休の影響が大きく響き、連休明けの週も客数が伸びていない。	
	×	タクシー運転手	・消費動向は、大型連休の影響をかなり受け、5月後半はかなり悪くなっている。	
企業 動向 関連 (九州)	-	-	-	
		建設業（社員）	それ以外	・5月中旬を過ぎ、一部の官公庁の発注も出ている。全ての官公庁からの発注が多くなれば、現在手持ち工事が無い業者に若干でも余裕が出て、景気はもっと上向きになる。
		農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年5月は原料の発生も順調で、販売も梅雨入り前で安定しているが、今年も同様の流れである。今年に入って、多かった原料も落ち着き、工場生産も安定している。売上も予定どおりに推移しているが、以前からある在庫分の回収まではできていない。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・比較的安定した受注が継続している。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・現状は変わらないが、従来の商品が減少して、デザイナーブランドやネット経由での注文が増加している。
		一般機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・半導体の落ち込みが続き、回復の兆しが見えない状況である。その分を自動車関連等の仕事で補っている。
		電気機械器具製造業（取締役）	取引先の様子	・一部半導体関連では、米中貿易摩擦の行方を懸念しており、実際の受注動向の減少等がうかがえる。
		輸送業（総務担当）	取引先の様子	・米中貿易摩擦の影響により、中国向け輸出を主業としていた県内中小企業が大打撃を受けているが、当社取引先の動向をみる限り影響はない。一方、中国から輸入している取引先は、今後も注視していく必要がある。
		金融業（従業員）	取引先の様子	・人手不足を背景に、緩やかながら雇用者所得が増加傾向にあり、スーパーマーケットやコンビニエンスストア等の売上は増加している。一方、住宅販売ではマンション等を中心に伸び悩んでいる。
		金融業（調査担当）	それ以外	・融資残高の伸長率はプラスで推移している。内訳では、中小企業向けが増加しており、大・中堅企業はほぼ横ばいとなっているが、不動産向けは減少傾向である。また、融資利回りは1%程度でほぼ横ばい状態である。総じて地方企業の資金需要は、引き続き一定の水準を堅持しており、3か月前と比較して大きな変化はない。
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・取引先の中小企業全般において、主に建築による設備投資を計画している企業があるが、建設費の高騰により、計画を見合わせたり、中止する状況である。	

	金融業（調査担当）	取引先の様子	・大型連休中の主要観光地や宿泊施設は活況を呈し、過去最高の客足となっているが、その後の動きは例年並みにとどまっている。
	新聞社〔広告〕（担当者）	取引先の様子	・景気に対する好材料を聞かない。
	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・今年の5月は特殊な要因で、業種により差が出ている。連休の影響によりホテルや観光関係は、前半は好調である。休業店舗が多くあり、一般的に売上は例年以上に下がっているが、その後の動きは上昇している。
	経営コンサルタント（社員）	競争相手の様子	・業績予想の検討会によると、目立った動きは見られない。
	経営コンサルタント（社員）	受注価格や販売価格の動き	・低価格酒や大型パッケージの割安な酒がよく売れている。
	経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・取引先に業況を聞いても、大きな変化はない状況である。
	その他サービス業〔物品リース〕（支社長）	取引先の様子	・2019年3月期決算では、各業界差はあるものの、しっかり利益確保している取引先が多い。コンプライアンスを含めた人件費等、社内信用コストが増加している。また、電気代削減と消費の目的により、自家消費型の太陽光発電案件が増加している。
	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・10月からの消費税上げや米中貿易摩擦、株価下落、材料の相次ぐ値上げ等、社会を取り巻く環境は決して明るくない。その状況下、一般小売の家具需要では、前年比はマイナス10%近く減少しており、特注家具や特にホテル物件での受注にも影響が広がっている。
	金属製品製造業（事業統括）	取引先の様子	・主に中国向けの輸出関係部門では、米中貿易摩擦の影響により、客の投資判断時期を見極めている状況である。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・今月になり、急に受注量が落ち込んでいる。同業者との情報交換によると、米中貿易摩擦が原因で、その影響を大きく受けている。
	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・主要取引先からの受注が低調である。
	輸送用機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・車両の生産台数自体は横ばいで推移しているが、オプション部品の装着率が減少方向になり、売上に影響が出ている。
	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・健康食品は、価格帯にかかわらず受注量が減少している。中国向けは好調を維持しているが、価格帯が低下気味である。
	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・初めての10連休明けで、多少の取扱量があるものの、中旬以降は大きく減少し、半導体を中心に精密機械関係も大きく減少している。
	通信業（経理担当）	取引先の様子	・消費税上げの話題が増え、実施又は、延期の状況を注視している。
	金融業（営業）	取引先の様子	・製造業を始め、人手不足は慢性化している。外国人の採用は広がりを見せているものの、十分ではない。また、米中貿易摩擦の影響により、今後の需要が不透明であり、設備投資に関しても、計画はあるものの保留となるケースも見受けられる。
	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	取引先の様子	・市町村の行政に関する調査や計画策定に関する業務について、5月に入って本格的に入札や見積合わせが行われているが、予定価格の3～4割で落札する業者が多く、印刷代や郵送費、人件費で予算を消化し、利益が出ない状況になっている。
×	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・現在は底値となっており、農業者にとっては厳しい冬春シーズンとなった。
×	繊維工業（営業担当）	受注価格や販売価格の動き	・材料費や運賃、人件費等経費が大幅に上がり、工賃が追いつけない状態である。このまま人件費高騰が続くと、2～3年で倒産する企業が出ると考えられる。景気低迷の状態に加え、賃金が上がっており、今後が懸念される。
×	その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	受注価格や販売価格の動き	・一部携帯電話の販売停止、原油下落等で相場が下がり危惧している。
雇用	-	-	-

関連 (九州)	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・改元やゴールデンウィークの影響もあり、サービス業の求人数が増加している。
	人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・大型連休後は、求人のお問合せも落ち着いており、特に大きな動きはなかった。ネット検索数や応募数は、増加していない。
	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・年間を通して、派遣受注枠を活発化する時期であるが、直接雇用の案件も含め市場が活発化していない。
	求人情報誌製作 会社(編集者)	求人数の動き	・中心部にある温浴施設が4月から値上げをしているが、来客数が明らかに落ち込んでいる。訪日外国人及び消費税引上げ対策と思われるが、一般庶民の反応は厳しい。取扱求人数も前年を大きく割り込んでいる。
	新聞社[求人 広告](担当者)	それ以外	・中心市街地の人出も多く、郊外のショッピングセンターも駐車するのに苦労するなど活発な消費活動が継続しており、景気が良い状態が続いている。
	職業安定所(職 員)	周辺企業の様子	・再開発商業施設の求人活動が本格的に始動している。在職中と思われる若年層が活発に就職活動を行っており、雇用の流動性が高まっている。
	職業安定所(職 員)	求人数の動き	・当市の離職者減少により、求職者数が減少しているため、景気は変わらない。
	学校[大学] (就職支援業 務)	求人数の動き	・2020年卒業採用活動に向けて、企業は活発である。しかし、求人の受理件数は、前年比を減少している。企業側の採用活動が前倒しされていることが原因と推察する。
	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・新年度が始まり、企業からの人材募集の発注が若干落ち着いている。
	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・派遣や人材紹介の依頼は落ち着いている。人手不足のため、数か月前に依頼された案件にも人材の供給ができない状況である。
	新聞社[求人 広告](担当者)	雇用形態の様子	・企業によるが、多くのサラリーマンが55歳を超えると年齢給や役職給のカットがあることで、節約を強いられる。
	職業安定所(職 員)	求人数の動き	・求人増加率が停滞し、ここ半年間減少傾向が鮮明になっている。
	x	-	-